

## ① 史跡、文化財など歴史的財産の活用について

本町の歴史は、堂崎遺跡が町内最古の遺跡と考えられることから、2～3万年前の石器時代ではないかと考えられるという。その時に始まった町の歴史は遺跡に留まらず、様々な史跡、そして文化財が残されており、これを活用することで「郷土愛」を育むことにもつながるのではないかと思う。歴史講座などを通じ、多くの町民が学ぶ機会を作ることで生涯学習の推進を図っていることは承知している。しかし、これだけに限らず活用を進めることで「観光」「健康づくり」など様々な施策を通じ、本町の魅力を発信することができるのではないかと考えている。今後、長与三彩窯跡の調査が開始されるが、前回以上の物が発掘されるのではないかと期待している。調査後の将来における活用、方向性も気になるところである。

今回、策定された「第10次総合計画」基本目標2-11「文化・芸術の振興」の中にも「文化財の保存・活用」が含まれており、各種講座を通じ文化財への理解と郷土愛の育成と示されている。本町の歴史、史跡、遺跡、文化財を生かし、どのように活用していくのか。以下の質問をする。

- (1) 長与三彩窯跡の調査後、保存、活用はどのように考えているのか、改めて伺う。
- (2) 歴史的価値のあるもの、場所など、郷土愛を育成するにあたり、どのように町民に伝え、活用していく計画か。
- (3) 何を残し、何を伝えるのか。その選択はできているのか。
- (4) 歴史的財産の保護や保全は、行政と教育委員会などが共に協議し進めていくべきと考えるが、どのように考えるか。

## ② 持続可能な社会を構築するための対策について

低炭素社会の実現に向け、世界では「脱ガソリン車・ディーゼル車」を掲げ、電気自動車にシフトする動きが見られる。日本政府もガソリン車の新車販売を2030年代には禁止する方向である。それらを見越し、今後、充電設備などのインフラ整備について進めていくべき時期に来ているのではないかと思う。充電設備の充実には住民サービス、観光等にも寄与することから、本町独自、または民間を巻き込む形で推進していくべきと思うがどうか。

## ③ 防犯灯、街路灯などの維持管理について

球切れ・LEDのセンサーや照度について相談を受けることが多いが、これらの維持管理、自治会などからの要望など、どのように対応し処理しているのか伺う。